

NSG グループ

2023年3月期 通期決算報告

(2022年4月1日～ 2023年3月31日)

2023年5月12日

細沼 宗浩
代表執行役社長 兼 CEO

楠瀬 玲子
執行役常務CFO

目次



1. 2023年3月期 通期決算概要
2. 2024年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. RP24の最終年2024年3月期に向けて
5. まとめ

CFOの楠瀬です。

3ページは本日のご説明内容になります。
本日は始めに2023年3月期の通期決算概要および
2024年3月期の業績予想について私よりご説明し、

その後CEOの細沼より
リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗について、
そしてRP24の最終年2024年3月期に向けてご説明します。

1. 2023年3月期 通期決算概要

連結損益計算書



売上高および営業利益は増収増益を継続、営業利益は通期業績予想を24%上回る
特に自動車用ガラス事業で営業利益が大幅に改善

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期累計 (12か月)			FY23通期業績予想
	2022年3月期	2023年3月期	差異	2022年3月期	2023年3月期	差異	
売上高	1,576	1,973	397	6,006	7,635	1,630	7,500
営業利益	55	107	52	200	348	148	280
営業利益率	3.5%	5.4%	+1.9pt	3.3%	4.6%	+1.3pt	3.7%
個別開示項目 (純額)	△ 7	△ 12	△ 5	36	△ 452	△ 488	△ 440
個別開示項目後 営業利益 (△損失)	48	94	47	236	△ 103	△ 340	△ 160
金融費用 (純額)	△ 34	△ 61	△ 26	△ 125	△ 174	△ 49	△ 150
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	△ 34	-	34	△ 34	-	34	-
持分法による投資利益	19	20	1	75	73	△ 2	60
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 34	△ 4	30	△ 34	△ 15	19	
税引前利益 (△損失)	△ 36	49	85	119	△ 219	△ 338	△ 250
当期利益 (△損失)	△ 38	38	76	68	△ 310	△ 378	△ 340
純利益 (△損失) *	△ 45	34	79	41	△ 338	△ 379	△ 370
EBITDA	144	207	62	567	750	184	

円安もあり建築用ガラス、自動車用ガラス事業で増収。高騰した原燃材料コストの価格転嫁が進展

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+841	+54
自動車用	+784	+120
高機能	△10	△12
その他	+14	△14
グループ全体	+1,630	+148

第2四半期に欧州の自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を計上

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が当第4四半期 (3か月) の業績、その右側が2023年3月期通期 (12か月) の業績です。

売上高は、当第4四半期では、自動車用ガラス事業で自動車部品不足の影響が徐々に緩和し販売数量が増加、建築用ガラス事業とともに原燃材料価格の高騰を販売価格に転嫁し、増収となりました。その結果、当第4四半期 (1-3月期) では、売上高は前年同期から397億円、25%の増収で1,973億円、通期累計でも前年度比1,630億円、27%増収の7,635億円、為替影響を除くと21%の増収でした。

営業利益は特に自動車用ガラス事業で大幅に改善し、当第4四半期は前年同期比52億円、95%の増益で107億円となりました。通期累計でも前年対比148億円、74%増益の348億円と増益を継続し、営業利益率も3.3%から4.6%と1.3ポイント改善、通期営業利益予想の280億円を24%上回りました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は、第2四半期に欧州の自動車用ガラス事業について2006年のピルキントン社買収により生じたのれんおよび無形資産の減損損失488億円を計上したため、累計で452億円のマイナスとなりました。その結果、個別開示項目後営業損失は、103億円でした。

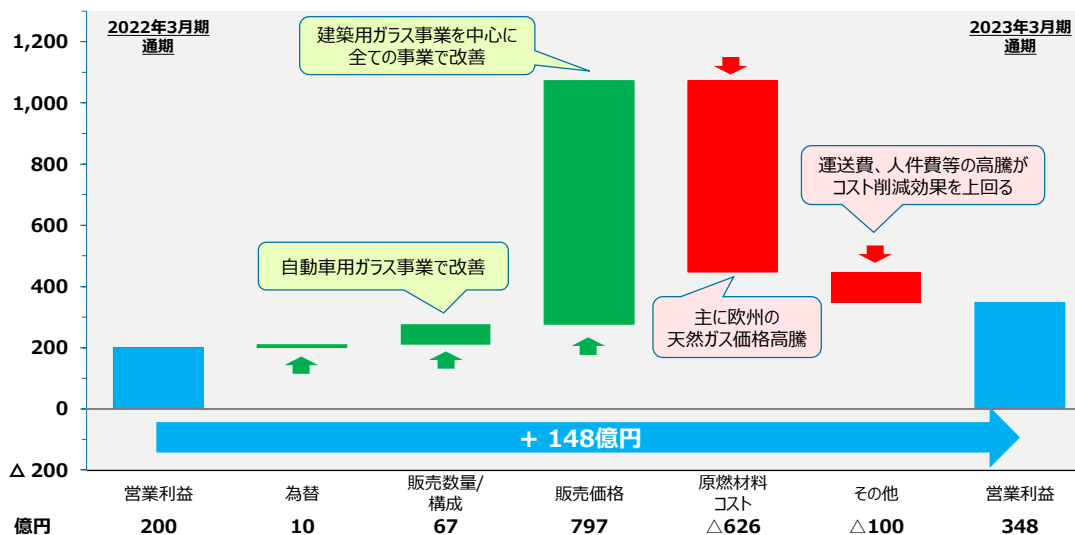
また、金利上昇等により金融費用が累計では対前年比49億円増となりました。

持分法による投資利益においては、ロシアのジョイント・ベンチャーに対する持分法による投資利益を一旦計上するものの、前年度末に投資の一部に対して減損損失を認識したことに伴い、即時同額を減損しています。

以上、個別開示項目費用の計上に伴い、累計では税引前損失は219億円、当期損失は310億円、純損失は338億円と大幅な赤字となりましたが、営業利益が通期業績予想を上回ったことで通期業績予想より赤字額が減少しています。

営業利益差異分析 (通期累計)

原燃材料やその他コスト増加の影響を受けたが、販売価格改善および販売数量増加で吸収



2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

6

続きまして6ページは、通期累計12か月間の、前年度の営業利益200億円と、当年度の営業利益348億円との差異148億円の差異分析です。

「為替」は、円安の影響を受け10億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、主に自動車用ガラス事業での改善により、67億円プラスとなりました。

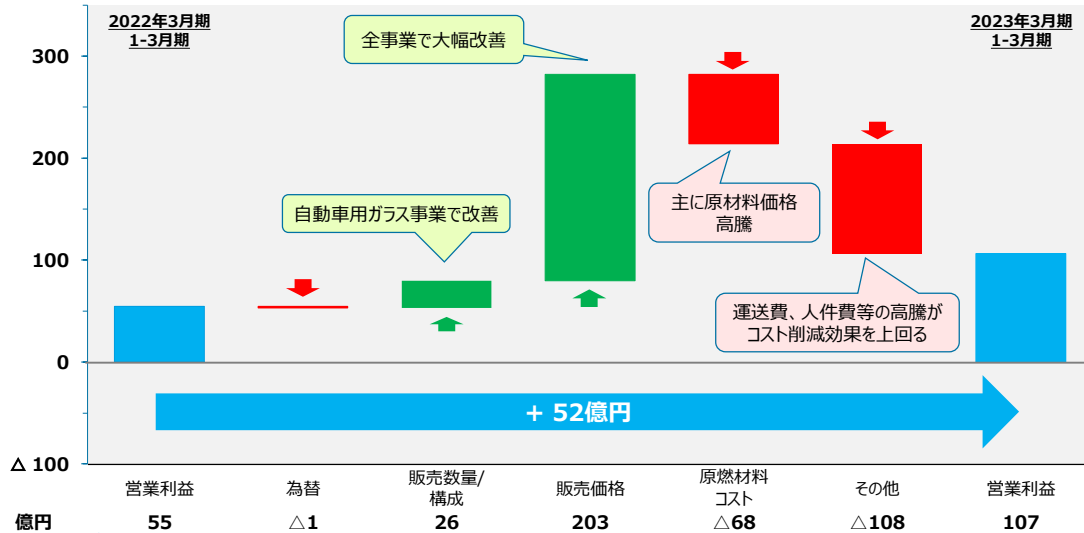
「販売価格」は797億円のプラス、良好な需給環境と燃料サーチャージ制を反映した建築用ガラス事業を中心に、自動車用ガラス事業でも第2四半期以降取引先との価格改善交渉が進捗し、全ての事業で販売価格が改善しました。

「原燃材料コスト」は、626億円のマイナスで、主に欧州の天然ガスを中心とした全世界でのエネルギー価格と原材料価格高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、100億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ影響を受けた運送費や人件費などのコスト高騰が第4四半期においてリバイバル計画24 (RP24) の主要施策であるコスト構造改革による効果を上回りました。

営業利益差異分析 (1-3月期)

原燃材料やその他コスト増加の影響を受けたが、販売価格改善により営業利益は前年から大幅に改善



2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

7

続きまして7ページは、1-3月期、当第4四半期3か月間の前年度第4四半期の営業利益55億円と、当第4四半期の営業利益107億円との差異52億円の差異分析です。

「為替」は、この3か月間で新興国通貨の円高影響を受け1億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は、主に自動車用ガラス事業での改善により、26億円プラスとなりました。

「販売価格」は、203億円のプラスで、主に建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業によるものです。建築用ガラス事業においては、欧米で燃料サーチャージ制が適用されており、翌月以降の販売価格に燃料価格が反映されます。燃料価格は前年度より下落しましたが、タイムラグの影響により第3四半期の比較的高い燃料価格が当第4四半期での販売価格にも部分的に反映されたため、改善幅が大きくなりました。自動車用ガラス事業では、取引先に対する価格転嫁が期末に向けてさらに進捗し、販売価格改善の効果が大きく表れました。

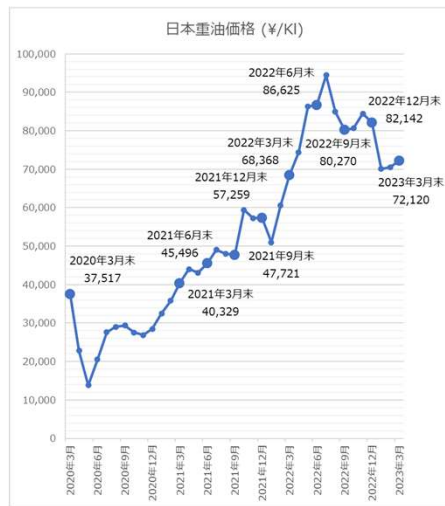
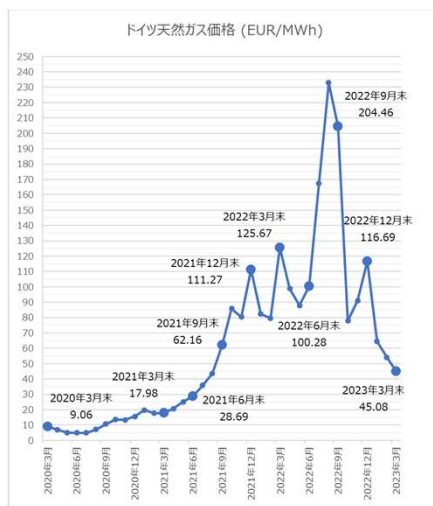
「原燃材料コスト」は、68億円のマイナスで、原材料費高騰の影響を大きく受けました。

「その他」は、108億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、運送費や人件費などのコストが上昇し、第4四半期においてリバイバル計画24（RP24）の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。

エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：下落傾向ながら依然高水準

日本の重油価格：当第4四半期も70,000円/KI超の高価格で推移



2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は下落傾向ですが、
依然として高水準にあります。
日本における重油価格も引き続き高価格で推移しています。

ガラス価格の推移

第4四半期には燃料サーチャージ制により低下したが、2023年3月期のドイツのガラス価格は前年度比年平均で+42% (136.9→194.4) 上昇。天然ガスを中心とした原燃材料価格高騰の影響を吸収



2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

9

こちらはドイツのガラスの市場価格の推移になります。

当第4四半期は、天然ガス価格の下落を受け低下傾向ながら、2023年3月期通期平均のガラス価格は194.4と前年度の平均136.9と比較すると42%上昇しました。

足元では天然ガス価格の下落を受けガラス価格は燃料サーチャージ制により低下したものの、一定の利益は確保できています。

連結貸借対照表



第2四半期におけるのれんの減損後もRP24の目標数値である自己資本比率10%超を維持

(億円)	2022年 3月末	2023年 3月末	増減	
資産合計	9,393	9,514	121	第2四半期での減損認識によるのれん、無形資産の減少
非流動資産	6,370	6,151	△ 220	棚卸資産、売上債権の増加
流動資産	3,022	3,363	341	借入金が増加、長期借入金から1年以内借入金にシフト仕入債務の増加
負債合計	7,699	8,265	566	第2四半期の減損損失計上、デリバティブ金融資産の減少により減少したが、超インフレ調整で一部相殺。自己資本比率10%超を維持
流動負債	3,067	3,844	776	
非流動負債	4,632	4,421	△ 211	
資本合計	1,694	1,249	△ 445	
親会社の所有者に帰属する持分	1,453	970	△ 483	
自己資本比率 (%)	15.5%	10.2%	△ 5.3pt	主に円安、デリバティブ金融資産の減少影響
ネット借入	3,652	4,079	428	

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

10

10ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産は、円安の影響を受けた一方、第2四半期ののれんおよび無形資産等の減損により220億円の減となりました。

流動資産は、すべての事業において、原燃材料費高騰の影響を受けた棚卸資産の増加と建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業における販売価格改善による売上債権の増加で、341億円の増でした。

借入金が増加するとともに長期借入金が1年以内借入金にシフトし、また原燃材料費高騰の影響を受けた仕入債務が増加したため、流動負債は776億円の増となる一方で、非流動負債は221億円の減でした。

親会社の所有者に帰属する持分は、第2四半期に減損損失の計上、燃料費低下を受けたデリバティブ金融資産の減少があったものの、アルゼンチンにおける超インフレ調整の影響により一部相殺し、483億円減の970億円でした。

この結果、自己資本比率は10.2%となり、RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を2年連続で維持できています。

ネット借入は、主に円安とデリバティブ金融資産の減少影響により、428億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは営業利益改善により前年に続きRP24の目標数値である100億円を上回る

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期累計 (12か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	239	402	162	451	485	34
(うち、運転資本の増減)	144	256	112	57	△ 70	△ 127
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 27	△ 49	△ 22	△ 228	△ 346	△ 119
(うち、有形固定資産の取得)	△ 71	△ 93	△ 22	△ 331	△ 377	△ 46
フリー・キャッシュ・フロー	212	353	140	223	139	△ 84
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 89	△ 207	△ 119	△ 208	△ 79	129
現金及び現金同等物の増減	124	145	22	15	60	45
現金及び現金同等物 期末残高				600	685	85

コストおよび販売価格上昇に伴い棚卸資産、売上債権増加

前年度はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上

円安影響により増加

RP24の目標数値である100億円を上回る

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

11

11ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、累計では、運転資本の増加があったものの、営業利益の改善により前年度比34億円の増、485億円のプラスとなりました。主に当第4四半期（1-3月期）の3か月間で営業利益改善と運転資本の減少により、前年同期比162億円の増、402億円のプラスとなったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計でマイナスが前年度から119億円増加しています。これは、前年度はバッテリーセパレーター事業の譲渡収入を計上した一方で、本年度は円安もあり有形固定資産の取得が増加したためです。

以上により、累計のフリー・キャッシュ・フローは139億円のプラスとなり、前年に引き続きRP24の財務目標であるフリー・キャッシュ・フロー100億円以上を達成しています。

セグメント情報



(億円)	2021年3月期 通期				2022年3月期 通期			2023年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	COVID後 営業利益*	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	2,155	43%	157	92	2,818	47%	281	3,659	48%	336	841	54
欧州	852	17%			1,160	19%		1,571	21%		410	
アジア	772	15%			862	14%		992	13%		130	
米州	531	11%			795	13%		1,096	14%		301	
自動車用ガラス事業	2,452	49%	18	△ 78	2,762	46%	△ 79	3,547	46%	41	784	120
欧州	1,036	21%			1,167	19%		1,502	20%		335	
アジア	606	12%			604	10%		699	9%		95	
米州	810	16%			992	17%		1,347	18%		355	
高機能ガラス事業	368	7%	67	65	398	7%	99	388	5%	87	△ 10	△ 12
欧州	64	1%			79	1%		95	1%		16	
アジア	293	6%			306	5%		276	4%		△ 30	
米州	11	0%			13	0%		16	0%		3	
その他	17	0%	△ 111	△ 108	27	0%	△ 101	41	1%	△ 115	14	△ 14
合計	4,992	100%	131	△ 30	6,006	100%	200	7,635	100%	348	1,630	148

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

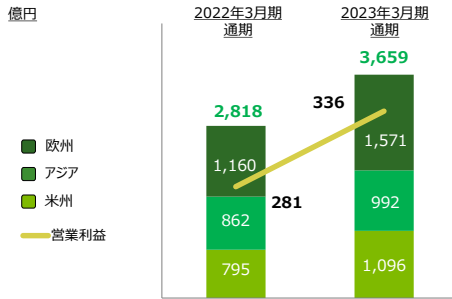
*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 12

12ページは、過去3か年度の累計の事業セグメント毎に
売上高および営業利益を示しています。
各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・減益)



通期では販売価格改善および為替影響もあり大幅増収増益
第4四半期は原燃材料費の高止まり、運送費、人件費高騰の影響を受け減益



(億円)	1-3月期(3か月)			通期累計(12か月)		
	2022年3月期	2023年3月期	差異	2022年3月期	2023年3月期	差異
売上高	750	903	153	2,818	3,659	841
欧州	318	391	73	1,160	1,571	410
アジア	215	245	29	862	992	130
米州	216	267	51	795	1,096	301
営業利益	77	74	△4	281	336	54

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

13

欧州 (累計：増収・減益 1-3月期：増収・減益)

- 下半期はインフレ進行と金利上昇に伴い需要がやや減少
- その他コストや高止まりした原燃材料費を販売価格への転嫁で軽減

アジア (累計：増収・増益 1-3月期：増収・減益)

- 日本では需給改善に伴い販売価格改善がさらに進展
- その他アジアでは下半期は競合激化により販売数量減少・販売価格低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

米州 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 北米は、輸送コンテナ不足による出荷の制約が下半期に解消、強い需要を背景に販売価格が上昇
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

13ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、全地域での強い需要と価格改善を背景に、為替の円安効果もあり大幅な増収となりました。

営業利益は、原燃材料費の高止まりや運送費、人件費高騰の影響を受け第4四半期では若干の減益となりましたが、通期では増益を維持しました。

欧州は、増収減益となりました。

中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要が見込まれるものの、インフレの進行と金利上昇により企業の景況感や消費者マインドが悪化し、需要はやや減少しました。

燃料サーチャージ制により販売価格にエネルギー価格を反映しましたが、運送費や人件費を中心としたその他コスト上昇により収益性は悪化しました。

アジアは、累計では増収増益でしたが当第4四半期では増収減益でした。

日本では需給が改善し、前年度に続き10月からの値上げ効果もさらに発現しています。

その他の国々では下半期において競合環境の激化の影響を引き続き受け、販売数量が減少、販売価格も低下しています。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

米州も、増収増益となりました。

北米は、輸送コンテナの不足による出荷の制約も解消し、強い需要と燃料サーチャージ制を背景に、販売価格が増加しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

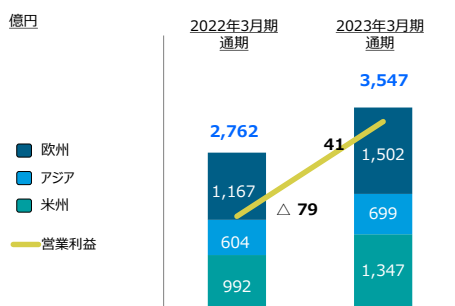
南米は、強い需要が継続しています。

第3四半期からアルゼンチンで2基目のフロート窯が生産を開始し、収益に貢献しています。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)



自動車メーカー向け販売価格改善が進捗し、通期営業黒字を達成
部品不足による自動車生産制約の影響は、徐々に解消



欧州 (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)
アジア (累計：増収・増益 1-3月期：増収・増益)
米州 (累計：増収・減益 1-3月期：増収・減益)

- 全地域で多くの自動車メーカーと価格改善交渉がさらに進捗し、高騰した原燃材料費を相殺
- 半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響が続いているが、徐々に解消
- 米州では需要は堅調だが、原燃材料費や運送費、人件費等その他費用の増加により減益

(億円)	1-3月期(3か月)			通期累計(12か月)		
	2022年3月期	2023年3月期	差異	2022年3月期	2023年3月期	差異
売上高	730	963	233	2,762	3,547	784
欧州	303	426	123	1,167	1,502	335
アジア	160	205	45	604	699	95
米州	266	332	65	992	1,347	355
営業利益	△20	52	72	△79	41	120

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

14

14ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、累計および第4四半期において増収増益でした。自動車メーカーに対する販売価格改善がさらに進捗し、部品不足による自動車生産制約の影響も徐々に解消しました。その結果、第4四半期も第3四半期に続いて営業黒字を計上し、通期累計で営業黒字を達成しました。

自動車メーカーとの、投入コスト上昇を緩和することを目的とした価格改善交渉は、全地域でさらに進捗し、高騰した原燃材料費を相殺しています。

半導体を中心とした自動車部品不足による自動車生産の制約は、依然として継続していますが、徐々に回復し、販売数量は増加しています。

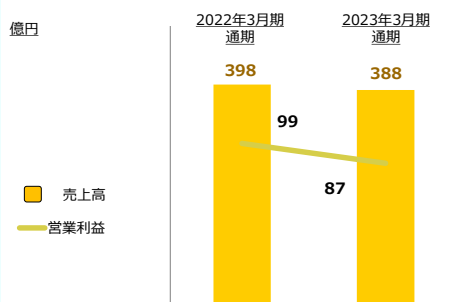
ただ、米州では増収減益で、北米で強い需要が継続しているものの原燃材料費、運送費、人件費等その他費用が上昇しました。南米での需要は比較的堅調で、販売数量が改善しています。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (累計：増収・減益 1-3月期：減収・減益)



ロックダウン及び景気減速の影響により販売数量が減少、コスト増加もあり利益率低下
累計では増収を継続 (前年度9月に売却したバッテリーセパレーター事業を除く)



- ファインガラスでは、景気減速の影響を一部受けたが、継続的なコスト削減等により業績は安定
- プリンター用レンズは、半導体等部品不足の影響から徐々に回復したが、需要は北米や欧州でわずかに減少
- グラスコードはアフターマーケット用を中心に需要が堅調であったが、取引先のサプライチェーンの問題を受けて販売数量減少
- メタシャイン® は自動車塗料および化粧品向けで需要がわずかに改善

(億円)	1-3月期(3か月)			通期累計(12か月)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	差異	2022年 3月期	2023年 3月期	差異
売上高	90	90	△ 0	398	388	△ 10
営業利益	21	15	△ 6	99	87	△ 12

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

15

続きまして15ページです。

高機能ガラス事業は、第4四半期はIT市場の減速による需要減少の影響を受け販売数量が減少し、減収減益となりました。

累計では、前年度に売却したバッテリーセパレーター事業を除くと、増収を継続しましたが、収益性については、ロックダウンやIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受け販売数量が減少、原燃材料費や運送費等のコスト上昇もあり低下しました。

ファインガラスは、下半期では景気減速の影響を一部受けましたが、累計では継続的なコスト削減による事業基盤の強化と売上構成改善により業績は引き続き安定していました。

プリンター用レンズは、半導体等部品不足の影響から徐々に回復したものの、需要はインフレの影響もあり北米や欧州でわずかに減少しました。

グラスコードはアフターマーケット用を中心に潜在的な需要自体は堅調なものの、販売数量は取引先におけるサプライチェーンの問題による影響を受けました。

メタシャイン®は自動車塗装および化粧品向けで需要がわずかに改善しました。

2. 2024年3月期 業績予想について

2024年3月期 業績予想の前提

グループ	<p>売上高は横這い、営業利益は減益だが、税引前利益・当期利益・純利益は増益、黒字化の計画 RP24の最終年あたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 若干の円高を見込む エネルギー価格はやや低下するものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続 金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善に努め、収益性改善に注力
建築用ガラス	<p>良好な需給環境継続を期待、一方で欧米を中心にエネルギー価格変動の影響と景気後退懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧州：エネルギー価格の変動、原材料費高騰は続くが、価格転嫁も継続。販売数量はやや減少の見込み アジア：日本の数量および価格が回復するが、その他アジア地域での競合状況を注視 北米：市場は好調継続ながら利上げによる景気後退懸念 南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアで生産設備が稼働予定、米国でも拡大検討中
自動車用ガラス	<p>原燃材料費高騰の影響が続くが、販売数量は増加する見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 全地域で強い自動車需要と在庫逼迫感は継続 自動車メーカーとの価格改善交渉を継続 半導体等部品不足は続くが、徐々に解消していく見込み コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す
高機能ガラス	<p>コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受け利益率低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ファインガラスは、コスト削減を継続するが、景気減速の影響も懸念 プリンター用レンズは、欧米のインフレ拡大に伴う景気動向を注視 グラスコードは、安定した需要の一方で取引先のサプライチェーンの状況を注視

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

17

続いて2024年3月期の業績予想です。

スライド17は、2024年3月期業績予想の前提を示しています。

2024年3月期の通期売上高は前年度比若干の円高を見込み横這い、営業利益は、エネルギー価格はやや低下するものの、世界的なインフレ拡大などの影響を受け原材料や運送費、人件費等その他のコストが増加し、減益と見えています。

一方、税引前利益・当期利益・純利益予想は増益を予想しており、黒字の計画です。欧米を中心とした金利上昇に伴う潜在的な景気後退などのリスクにより、事業環境は依然不透明ですが、引き続きコスト削減努力、高付加価値製品の拡大、価格改善などに取り組むことにより、これらの潜在的リスクの影響を低減し、収益力の向上に注力してまいります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、欧州では、天然ガスを中心とした燃料価格の変動や、原材料費高騰が継続すると予測されます。価格転嫁によりその影響を軽減していきますが、販売数量はやや減少する見込みです。アジアでは、需給環境の改善に伴い、日本では数量の増に加え、値上げ効果も継続すると見えますが、その他アジア地域では競合状況を注視する必要があります。北米では、好調な経済活動に伴い域内市場の底堅い需要が期待されるものの、利上げによる景気後退が懸念されます。南米ではタイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献する想定です。太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続すると見込んでいます。なお、2024年3月期第3四半期の生産開始に向けてマレーシアでオンラインコーティング設備の建設が進捗しています。また、米国でも拡大に向けて検討中です。

自動車用ガラス事業では、
全地域で強い自動車需要は継続し、半導体不足に伴う自動車生産の制約は
徐々に緩和するため、販売数量が増加する見込みです。
また、自動車メーカーとの価格改善交渉は継続する計画です。
コスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、
更なる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、
投入コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受け、
利益率が低下すると見えています。

2024年3月期業績予想



売上高は堅調に推移するが、営業利益は世界的なインフレ拡大の影響に伴う原材料費、
その他のコスト増加の影響を勘案し、減益の見通し

(億円)	2023年3月期 実績		2024年3月期 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	3,757	7,635	3,700	7,600	△ 57	△ 35
営業利益	144	348	140	300	△ 4	△ 48
個別開示項目 (その他)	△ 449	△ 452	10	10	459	462
個別開示項目後営業利益	△ 305	△ 103	150	310	455	413
金融費用 (純額)	△ 66	△ 174	△ 110	△ 220	△ 44	△ 46
持分法による投資利益	32	73	30	70	5	12
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	△ 7	△ 15				
税引前利益	△ 345	△ 219	70	160	415	379
当期利益	△ 370	△ 310	40	90	410	400
純利益*	△ 388	△ 338	30	70	418	408

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) 18

スライド18ページに移ります。
こちらが2024年3月期の通期業績予想になります。

表の左側から、前年度2023年3月期の上期および通期実績、
今年度2024年3月期の上期および通期予想と並んでおります。

先ほどご説明した通り、
通期売上高は横這いの7,600億円を見込みますが、
営業利益は円高予想、かつコスト増加の影響を勘案し
48億円減益の300億円の見通しです。
税引前利益・当期利益・純利益予想は増益を予想しており、黒字の計画です。

RP24の最終年度として、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

3つの改革

● 事業構造改革

- ・ マレーシアの既存フロート窯で太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設を開始（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの拡大に向けて検討中
- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯建設完了、第3四半期から生産開始、市場拡大が続いている南米での事業拡大を推進
- ・ 高輪ゲートウェイ駅構内で透明太陽光発電窓パネルを使用した実証実験を開始



透明太陽光発電窓パネル

● 企業風土改革

- ・ 「Your Voice」Surveyで従業員の声をグローバルに収集、調査結果を踏まえて企業風土改革をトップから推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を策定
- ・ 「Inclusion & Diversity (I&D)」を「Diversity, Equity & Inclusion (DEI)」に発展、個々の従業員のキャリアパス開発、エンゲージメント向上を志向
- ・ 取締役会の多様性課題に対応して取締役候補として桜井恵理子氏を選任

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtrprp24presentation2021_j01.pdf

20

CEOの細沼です。

リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、20ページから22ページで主要な進捗を説明します。

原燃材料価格の高騰、自動車生産の制約、景気後退懸念などの逆風下にあったものの、中期経営計画RP24の2年目においても主要施策を継続、推進しました。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」、「サステナビリティの推進」を掲げていますが、「3つの改革」の中の一つである「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。既に太陽電池パネル用ガラスが当社の収益とともに環境にも貢献していますが、ファーストソーラー社のアジアでの生産能力拡張方針に沿ってマレーシアの既存フロート窯に新設するオンラインコーティング設備については、2024年3月期の生産開始を目指し、建設を開始しました。また、米国においても、ファーストソーラー社の米国での生産能力拡張方針に沿って、太陽電池パネル用ガラスの拡大を検討中です。アルゼンチンで2基目となる新フロート窯が第3四半期から生産を開始し、収益に貢献しています。活発な建築需要が供給を上回る南米での事業拡大を推進します。そして先般4月26日にニュースリリースでお知らせしました通り、2021年9月より1年間実施した実証実験の第2弾として高輪ゲートウェイ駅構内で、透明太陽光発電窓パネルを使用した実証実験を開始しました。当窓パネルは建物の高いエネルギー効率を実現し、小さい敷地面積で多くの電力を生み出す可能性があり、「高付加価値の『ガラス製品とサービス』で社会に貢献するグローバル・ガラスメーカー」として「地球環境の保護」に貢献することを目指します。

「企業風土改革」では、全従業員意識調査「Your Voice」におけるグローバルでの従業員の意見を反映し、企業風土改革を経営陣から推進すべく「リーダーシップ行動憲章」を作成しました。

これは双方向コミュニケーション活性化の成果です。

また、従前より進めていた「Inclusion & Diversity」を「Diversity, Equity & Inclusion (DEI)」に発展し、個々の従業員のキャリアパス開発の促進やエンゲージメントの向上を図っていきます。

さらに本日東証開示文書でお知らせしました通り、取締役会の多様性の課題に対応して独立社外取締役候補として桜井恵理子氏を選任しました。

これにより取締役会の過半数を独立社外取締役が占めることにもなります。

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローが目標を上回る。営業利益率、純利益の改善に注力

2つの重点施策

● 財務基盤の回復

	目標数値	2022年3月期実績	2023年3月期実績
営業利益率	8%	3.3%	4.6%
純利益	3年累計300億円以上	41億円	純損失338億円
自己資本比率	10%以上	15.5%	10.2%
フリー・キャッシュ・フロー	100億円以上	223億円	139億円

- ・ 営業利益率：原燃材料費高騰、自動車生産制約等の下、コスト削減、付加価値製品の拡大、販売価格上昇により改善
- ・ 純利益：2022年3月期のロシアJV関連の減損損失68億円、2023年3月期のピルキントン買収に伴う欧州自動車用ガラス事業ののれん等減損損失488億円の会計処理を勘案すれば毎期100億円超
- ・ 2023年3月末現預金残高693億円、未使用融資枠462億円

● 高収益事業へのポートフォリオ転換

- ・ 中国の大手自動車用ガラスメーカーと中国での自動車用ガラス事業を統合

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtrprp24presentation2021_j01.pdf

21

続きまして、RP24に基づく構造改革の「2つの重点施策」についてご説明します。

「財務基盤の回復」については、RP24の財務目標数値として営業利益率、純利益、自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローの目標を設定し、推進しています。

自己資本比率とフリー・キャッシュ・フローは2022年3月期に引き続き、2023年3月期も財務目標数値を上回りました。

一方で営業利益率については、4.6%と目標の8%を下回っています。

しかし、原燃材料費の高騰や自動車生産台数が制約される厳しい状況の中、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により改善傾向にあります。

純利益については、2022年3月期は41億円の純利益、

2023年3月期は338億円の純損失でした。

ただし、2022年3月期はロシアのジョイント・ベンチャーに関連する減損損失を68億円計上したこと、

2023年3月期はピルキントン社買収に伴う

欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失488億円を計上したことから、一過性の会計損失を除外すれば、2年連続で100億円以上の純利益を達成しており、本業により利益を計上する力は着実についてきています。

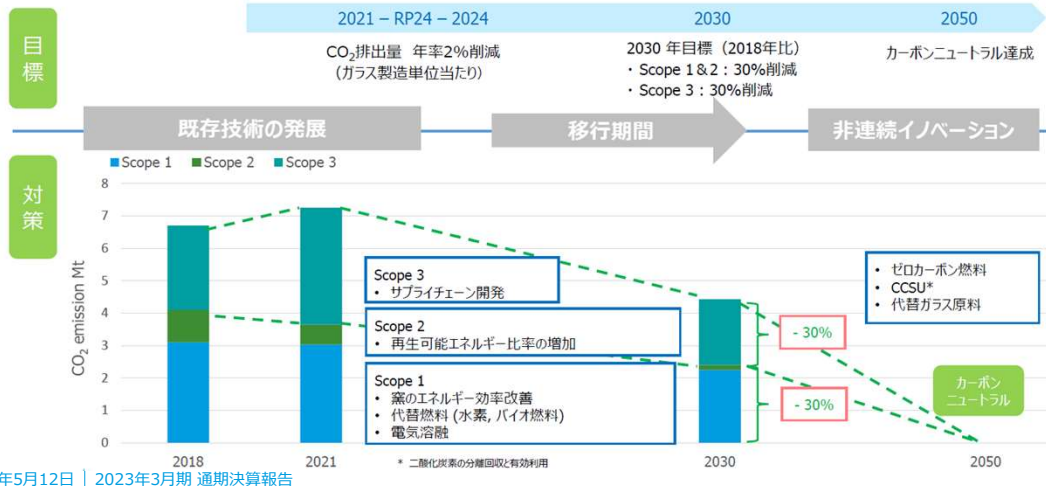
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、および価格改善により営業利益率と純利益の改善に注力いたします。

「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、当社グループの中国国内の自動車用ガラス事業を中国の大手自動車ガラスメーカーと統合しました。

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗 NSG GROUP

サステナビリティの推進

- 欧州で借入金利等の条件がグループのサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・リンク・ローンを締結、事業戦略遂行とサステナビリティ経営推進の両立につなげ、財務目標と非財務目標の統合を目指す



「サステナビリティの推進」については、
 欧州で「サステナビリティ・リンク・ローン」を締結しました。
 グループのサステナビリティ目標の達成により
 借入金等の条件が当社にとって有利になる当ローンの活用により、
 事業戦略遂行とサステナビリティ経営推進の両立につなげ、
 財務目標と非財務目標の統合を目指します。

4. RP24の最終年2024年3月期に向けて

RP24の最終年2024年3月期に向けて



2024年3月期は、グループの未来に繋がる重要な1年。

引き続きコスト削減、付加価値製品の拡大、販売価格の改善により利益とキャッシュの積み上げを推進

2023年4月から細沼CEO体制スタート

- **引き続きRP24の構造改革施策を推進し、利益とキャッシュの積み上げに注力**
 1. 従業員の健康、安全、倫理・コンプライアンスを徹底し、従業員を守る
 2. 不安定な市場環境のなかでも積極的かつ前向きな考え方で、主要な財務目標の達成を目指す
 3. 今年度だけでなくそれ以降にもグループの成長に貢献する、“Shine”の取り組みを着実に実行する
 4. 自動化およびデジタル化の取り組みを進め、より機敏でリーンな経営を実現する
 5. サステナビリティおよび費用削減の両面から炭素排出削減に取り組む
 6. 従業員一人ひとりおよび組織全体としてのエンゲージメントを高める
- **企業風土改革：4 (= 3 + 1) つの「F」**
Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定 + 職場におけるFun
- **将来に向けた戦略：4つの「D」**
Decarbonisation (脱炭素化)、Digital、Development (新規事業・製品開発)、Diversity
- **来年度 (2025年3月期) から始まる新中期経営計画を策定開始、グループの未来につながる1年**

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

24

続きまして24ページでは、RP24の最終年である2024年3月期に向けての取り組みを説明します。

2024年3月期は当社グループにとって3つの点で重要な意味を持った1年です。

まず第1に、2024年3月期はRP24の最終年である点です。新しい経営体制がスタートしましたが、引き続きRP24の「コスト構造改革」「事業構造改革」「企業風土改革」に注力することには変わりはありません。最終年も記載の6つの目標に沿って、引き続き構造改革施策を推進し、利益とキャッシュの積み上げに注力していきます。

第2に、新しい経営体制への移行に伴い、企業風土改革をこれまで以上に加速します。ここでは4つの「F」、すなわち「Flatな組織」、「Frankなコミュニケーション」、「Fast (迅速) な意思決定」に加え、「職場におけるFun」をモットーとして重視します。

最後の重要な意味は、「未来につながる1年」である点です。2024年3月期は、RP24の最終年であるというだけでなく、2025年3月期に始まる新中期経営計画を策定する未来に向けた1年でもあります。新しい計画は「中期」計画ですが、「長期」を見据えて目標を設定し、そこから「逆算して」「今」取るべき行動を特定していく必要があるという考え方を、グループ全体に展開していきます。この長期的な将来に向けた戦略では「D」から始まる4つの言葉をキーワードに取り組みます。4つの「D」とは、「Decarbonisation (脱炭素化)」、「Digital (デジタル)」、「Development (新規事業・製品開発)」、「Diversity (多様性)」です。「脱炭素化」と「デジタル」は、建築用ガラス事業や高機能ガラス事業をはじめとした事業の成長のためだけでなく、コスト削減等オペレーションにおいても重要です。

既存製品によるプロダクトミックスや利益の改善のためのVA活動は多くの成熟市場において頭打ちになっているという現実を直視し、脱炭素化とデジタルという市場トレンドを掴みビジネスにつなげるため、新技術、新商品、新しいビジネスモデルの「開発」を目指していきます。その際、新しいアイデアの源泉となるのが人材の「多様性」です。

RP24の最終年として、引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格の改善により利益とキャッシュの積み上げを推進し、財務目標の達成を目指すと同時に、グループの未来をつくる新中期経営計画の策定を進めていきます。

5. まとめ

まとめ



1. 2023年3月期 通期決算

- 販売価格上昇、販売数量増加、また円安もあり売上高および営業利益は増収増益を継続、通期業績予想を達成
- 原燃材料やその他コスト増加の影響を販売価格改善および販売数量増加で吸収
- 建築用ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業でも価格転嫁が進捗し、通期営業黒字化
- 自己資本比率はRP24の財務目標数値である10%超を維持、フリー・キャッシュ・フローも2期連続で100億円を上回る

2. 2024年3月期 業績予想

- 売上高は横這い、営業利益は減益だが、税引前利益・当期利益・純利益は増益、黒字化の計画
- 高止まりするエネルギー価格、世界的なインフレ拡大等で投入コストや運送費、人件費等其他コスト増加の影響が継続
- 引き続き全社的なコスト削減、高付加価値製品拡大、価格転嫁に努め、収益性改善に注力

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革：グローバルでは太陽電池パネル用ガラスへの投資、南米でのフロート窯投資を行い成長路線を継続
国内では高輪ゲートウェイ駅構内における透明太陽光発電窓パネルを使用した実証実験を開始
- 企業風土改革：ボトムアップとトップダウンで社内の意識改革推進、I&DをDEIに発展、取締役会の多様性を確保
- 財務基盤の回復：営業利益率、純利益の改善に注力

4. RP24の最終年2024年3月期に向けて

- 細沼CEO体制スタート
- RP24の仕上げと新中計の策定の1年

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

26

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- エネルギーコスト内訳
- 主なニュースリリース

連結損益計算書 四半期別推移



	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
売上高	919	1,297	1,358	1,419	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977	1,906	1,973
営業利益 (△損失)	△ 6	38	48	50	72	55	18	55	83	62	97	107
営業利益率	-	2.9%	3.5%	3.6%	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%
個別開示項目 (COVID-19関連)	△ 115	△ 13	△ 12	△ 21	-	-	-	-	-	-	-	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	△ 121	25	36	30	72	55	18	55	83	62	97	107
個別開示項目 (その他)	△ 1	△ 8	10	△ 61	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473	10	△ 12
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 122	17	46	△ 31	70	102	17	48	106	△ 411	107	94
金融費用 (純額)	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	-	-	-	-	-	-	△ 34	-	-	-	-
持分法による投資利益	△ 4	2	10	13	15	19	22	19	22	10	21	20
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	-	-	6	-	-	-	△ 34	△ 12	5	△ 4	△ 4
税引前利益 (△損失)	△ 149	△ 11	35	△ 47	55	92	7	△ 36	88	△ 434	77	49
当期利益 (△損失)	△ 165	△ 7	37	△ 28	29	67	10	△ 38	33	△ 403	22	38
純利益 (△損失)*	△ 164	△ 9	34	△ 30	25	61	0	△ 45	24	△ 412	17	34
EBITDA	61	127	135	145	165	146	111	144	180	161	202	207

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

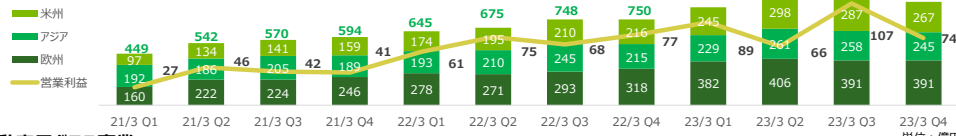
29

事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移



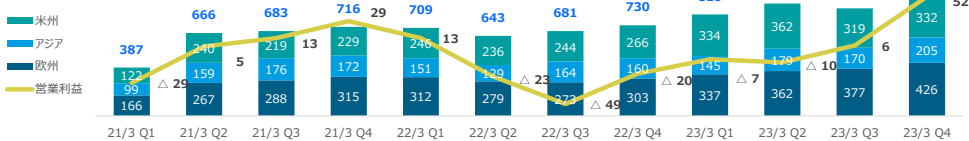
建築用ガス事業

単位：億円



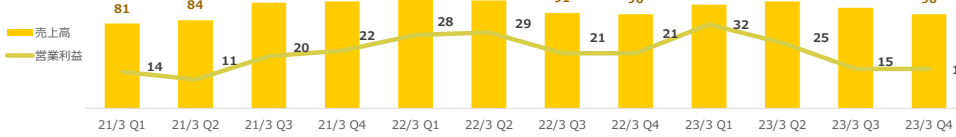
自動車用ガス事業

単位：億円



高性能ガス事業

単位：億円



2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

セグメント情報



(億円)	2021年3月期					2022年3月期					2023年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
売上高: 建築用ガラス	449	542	570	594	2,155	645	675	748	750	2,818	856	965	936	903	3,659
欧州	160	222	224	245	852	278	271	293	318	1,160	382	406	391	391	1,571
アジア	192	186	205	189	772	193	210	245	215	862	229	261	258	245	992
米州	97	134	141	160	531	174	194	210	216	795	245	298	287	267	1,096
営業利益	27	46	43	41	157	61	75	68	77	281	89	66	107	74	336
COVID後営業利益*	△ 22	41	38	34	91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 自動車用ガラス	387	667	682	716	2,452	709	643	681	730	2,762	816	903	866	963	3,547
欧州	166	267	288	315	1,036	312	279	273	303	1,167	337	362	377	426	1,502
アジア	99	159	176	173	606	151	129	164	160	604	145	179	170	205	699
米州	122	241	219	229	810	246	236	244	266	992	334	362	319	332	1,347
営業利益	△ 29	5	13	29	18	13	△ 23	△ 49	△ 20	△ 79	△ 7	△ 10	6	52	41
COVID後営業利益*	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 高機能ガラス	81	84	101	102	368	114	103	91	90	398	99	102	96	90	388
欧州	13	14	18	19	64	21	18	20	20	79	21	25	22	27	95
アジア	65	67	80	81	293	90	82	68	66	306	75	73	70	58	276
米州	3	3	3	3	11	3	3	3	4	13	4	5	4	4	16
営業利益	14	11	20	22	67	28	29	21	21	99	32	25	15	15	87
COVID後営業利益*	12	10	21	22	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: その他	2	4	5	6	17	9	8	3	7	27	8	7	9	18	41
営業利益	△ 18	△ 23	△ 28	△ 42	△ 111	△ 31	△ 25	△ 22	△ 24	△ 101	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115
COVID後営業利益*	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売上高: 合計	919	1,297	1,358	1,419	4,992	1,477	1,430	1,523	1,576	6,006	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635
営業利益	△ 6	38	48	50	131	72	55	18	55	200	83	62	97	107	348
COVID後営業利益*	△ 121	25	36	30	△ 30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2023年5月12日 | 2023年3月期 通期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

31

地域別売上高および営業利益



(億円)	2022年3月期 通期			2023年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	2,406	40%	△ 8	3,168	41%	102	762	109
アジア	1,772	30%	204	1,967	26%	229	195	25
米州	1,800	30%	105	2,459	32%	133	659	28
その他 *	27	0%	△ 101	41	1%	△ 115	14	△ 14
合計	6,006	100%	200	7,635	100%	348	1,630	148

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期
リストラチャージ費用	△ 7	△ 4
リストラチャージ引当金の戻入益	4	19
のれんおよび無形資産の減損損失/減損損失戻入益	1	△487
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	△ 6	28
子会社売却・事業譲渡による利益	44	15
固定資産売却による利益	-	7
固定資産の減損損失	△ 6	△ 26
その他	△ 0	△ 2
個別開示項目 純額	36	△ 452

為替レート・為替感応度



期中平均レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	見通し
英ポンド	133	135	136	139	153	152	153	153	163	163	164	163	160
ユーロ	118	121	123	124	132	131	131	130	138	139	140	141	134
米ドル	107	106	106	106	109	109	112	112	129	134	137	135	134
ブラジル・レアル	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4	26.5	26.3	24.8
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用												

期末レート

	2021年 3月期				2022年 3月期				2023年 3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	132	135	141	152	153	150	156	160	165	161	160	165
ユーロ	121	124	127	130	132	129	131	136	142	141	140	145
米ドル	107	105	103	111	111	112	116	122	136	145	132	133
ブラジル・レアル	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7	25.7	26.2
アルゼンチン・ペソ	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98	0.76	0.64

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円高になった場合の影響額

	2023年 3月期
資本	30.0億円の減少
当期損失	4.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	2024年3月期 見通し
減価償却費	367	402	440
資本的支出	286	409	477
通常投資	246	365	
戦略投資、他	40	44	
研究開発費	77	91	100
建築用ガラス事業	24	28	
自動車用ガラス事業	23	27	
高機能ガラス事業	9	10	
その他	22	26	

エネルギーコスト内訳 (2022年3月期→2023年3月期)

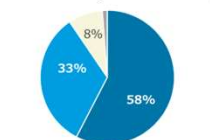


エネルギーコストは前年同期比グループ全体で+59%*、天然ガスは+76%。
天然ガス価格は下半期に低下したが依然高値圏。

地域別では欧州および米州、事業別では建築用ガラス事業に大きなコスト上昇圧力

2022年3月期 (通期)

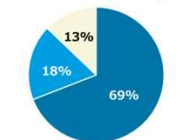
グループ全体 (エネルギー別)



コスト増

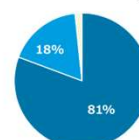
+59%、天然ガス+76%

天然ガスグループ全体 (地域別)

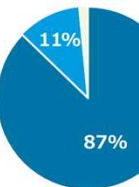
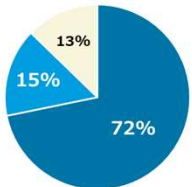
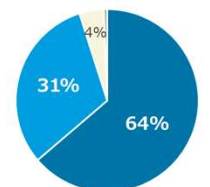


欧州+82%、米州+74%

天然ガスグループ全体 (事業別)



建築用+90%



■天然ガス ■電気 ■重油 ■その他

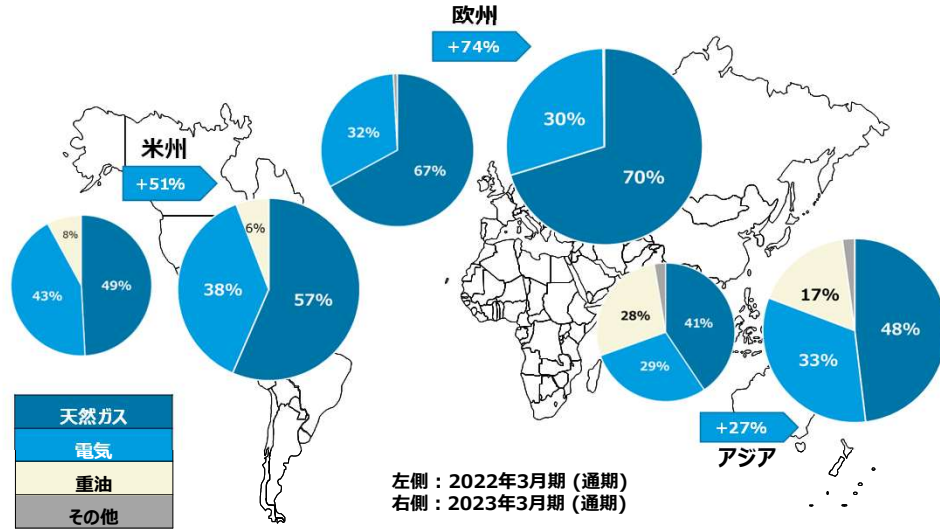
■欧州 ■アジア ■米州

■建築用 ■自動車用 ■高機能

2023年3月期 (通期)

エネルギーコスト内訳 (地域別)

天然ガス価格の高騰は欧州、米州を中心に世界的にエネルギーコストに大きな影響を与える



左側：2022年3月期 (通期)
右側：2023年3月期 (通期)

2022年11月～2023年4月 主なニュースリリース

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>)



2022年11月8日	～災害ゼロの職場環境の実現を目指して～ 世界全拠点で「NSGグループ安全の日」活動を一斉実施
2022年11月29日	世界最大級の高機能素材の総合展「第13回 高機能素材Week／プラスチックジャパン」に出展
2022年12月2日	国内最大・最先端のマシンビジョンが集う展示会「国際画像機器展 2022」に出展
2022年12月16日	「技術研究所 第二研究棟」の竣工式を開催 —高付加価値製品をより迅速に開発できる体制を目指して—
2022年12月19日	2022年度 全上場企業ホームページ充実度ランキングで最優秀サイトに選ばれました
2022年12月21日	インクルージョン&ダイバーシティの推進活動 -不妊治療と仕事の両立についてのセミナー、女性社員向けキャリアワークショップの開催-
2023年1月25日	環境配慮型調光ガラスが、九段会館テラスに採用
2023年2月8日	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会 第40回研究成果発表会開催
2023年2月15日	相模原事業所が「さがみはらSDGs推進企業」に認証
2023年3月9日	「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定
2023年3月16日	「NSGグループ環境安全衛生アワード2022」を全世界で実施
2023年3月17日	CDP「サプライヤー・エンゲージメント評価」において最高評価「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に2年連続で選定
2023年4月21日	英国でフロート板ガラスと型板ガラス共用の溶融窯への投資を決定
2023年4月26日	高輪ゲートウェイ駅構内における透明太陽光発電窓パネルを使用した実証実験の開始について

NSG
GROUP